

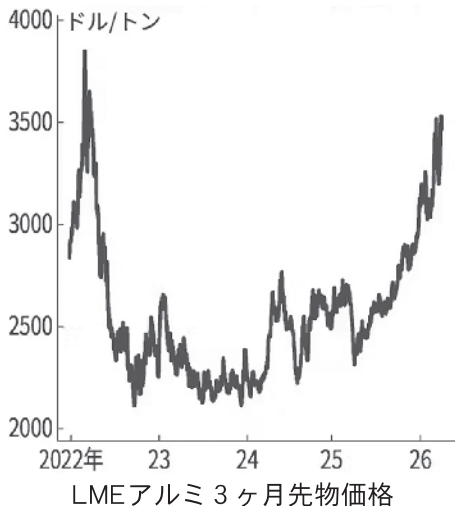
ALUMINIUM NEWS

アスカ工業株式会社アルミニウムニュース

第 779 号
2026年 5月 1日
発行

アスカ工業株式会社
〒444-0303
西尾市中畑町卯新田上28

中東産アルミ 供給懸念



米国・イスラエルとイランの軍事衝突によるホルムズ海峡の封鎖が、アルミニウムのサプライチェーンにも影を落としています。

電気代の安い中東はアルミ地金の製造が盛んで、中国を除く世界生産の2割を担います。生産量の多い中国は大半が自国消費に回ります。

日本の中東依存度は小さくなく、新地金輸入比率は約2割、スラブやピレット、二次合金などを含めると3割近くにまで達するとみられます。

中東の複数製錬所の損傷や製造ライン停止などの情報を背景に代替調達を探る動きが活発化しています。

エネルギーと非鉄金属の同時高は産業界の原材料コストを多方面で押し上げます。今後、事態の長期化が心配されます。

脱炭素社会向けアルミ製品供給の指針

このたび日本アルミニウム協会は、脱炭素社会に向けたアルミ製品供給の指針を公表しました。

アルミニウムは、電気伝導性、熱伝導性、耐候性に優れ、太陽電池、風力発電、長距離・高圧送電線、リチウムイオン電池、熱交換器等に用いられ、再生可能エネルギーの発生、送電・輸送、貯蔵の全ての過程において必須の素材です。

自動車、航空機、コンデンサー、半導体製造装置等の我が国の戦略的に重要な産業にとって不可欠な素材です。我が国のアルミニウム産業は、我が国の経済、産業競争力の大きな源泉の一つです。

欧米諸国においてはアルミニウムは重要物資に指定されており、米国においてはアルミニウム産業は戦略産業と位置づけられています。国際エネルギー機関においても、今後のエネルギー転換に当たった重要な鉱物とされています。

また、アルミニウムはリサイクル利用が非常に容易な素材であり、再生利用することにより大幅な炭酸ガスを削減することができます。利用を拡大することに

より循環型社会の構築が可能となります。

一方、水力発電等の再生可能エネルギーで生産されるグリーン地金の利用に対する需要が高まってきており、我が国として中長期的な観点から確保していくことが重要となってきております。

このような状況の中で、責任あるアルミニウム製品を安定して届け続けるためには、原料を確実に確保していくことが欠かせません。日本では一次製錬を行っておらず、原料の多くを海外から調達しているため、リサイクルアルミやグリーン地金を中長期的に確保していくことがより重要になっています。

こうした課題に対応するため、アルミ業界は、サプライチェーンにおける自らの役割として、リサイクルアルミやグリーン地金の自己調達について責任をもって取り組み、環境価値を製品に結び付けるトレーサビリティの確保、需給が大きく変動した際のリスク抑制、アルミ製品の安定供給と脱炭素化の実現を図って参ります。

アルミニウム二次合金地金・同二次地金需要見通し 令和 8 年度 1.7%増予測

一般社団法人日本アルミニウム合金協会は、このほど令和 7 年度のアルミニウム二次合金地金・同二次地金の需要実績見込みと、令和 8 年度の同需要見通しを発表しました。

政府の経済動向に関する発表では、令和 7 年度の我が国経済は、賃上げ率が 2 年連続で 5 % を上回るなど、「デフレ・コストカット型経済」から、その先にある新たな「成長型経済」に移行する段階まで来たとされており、景気は緩やかに回復しており、実質国内総生産成長率は 1.1 % 程度の上昇率になると見込まれております。

このような経済状況の中で、令和 7 年度は、アルミニウム二次合金の需要を支える我が国の自動車メーカーの国内生産が回復してきたものの、アルミ合金の需要にはそのまま反映されませんでした。

令和 7 年度のアルミニウム二次合金地金・同二次地金需要は、1,481,300 トン（対前年度比 99.1 %）が見込まれます。

令和 8 年度のアルミニウム二次合金地金・同二次地金の需要見通しは次のとおりに策定しました。

- (1) 鋳物・ダイカスト向け二次合金地金需要については、横ばいが見込まれる。
- (2) 圧延向け二次合金地金・二次地金需要については、横ばいが見込まれる。
- (3) 鉄鋼向け二次合金地金・二次地金需要については、横ばいが見込まれる。

以上の状況から、令和 8 年度のアルミニウム二次合金地金・同二次地金需要見通しを、1,506,100 トン（対前年度比 101.7 %）と策定しました。

尚、以上の予測は中東情勢の影響は織り込まず集計。

令和 8 年度アルミニウム二次合金・同二次地金需要見通し

（単位：トン）

項 目	令和 6 年度	令和 7 年度実績		令和 8 年度	
		見 込 み	前年度比 %	見 通 し	前年度比 %
鋳 物	319,526	336,800	105.4	344,500	102.3
ダ イ カ ス ト	888,731	882,500	99.3	899,300	101.9
圧 延	191,366	168,500	88.1	168,500	100.0
鉄 鋼 ・ そ の 他	95,500	93,500	97.9	93,800	100.3
計	1,495,123	1,481,300	99.1	1,506,100	101.7

（注 1）輸入地金を含む。

（注 2）鉄鋼・その他は当協会推定値となっている。

令和 8 年度鋳物・ダイカスト用アルミニウム一次合金地金需要見通し

（単位：トン）

項 目	令和 6 年度	令和 7 年度実績		令和 8 年度	
		見 込 み	前年度比 %	見 通 し	前年度比 %
鋳 物	171,364	157,400	91.9	130,700	102.1
ダ イ カ ス ト	92,315	88,300	95.7	91,100	103.2
計	263,679	245,700	93.2	251,800	102.5

（注 1）輸入地金を含む。

アルミ製品総需要は359.6万トン

2025暦年（1～12月）実績

日本アルミニウム協会はこのほど、2025暦年（1～12月）のアルミニウム製品総需要実績を発表しました。

それによると、国内需要は3,440,773トンで前年比2.2%減と4年連続の減少、輸出は154,969トンで同比13.6%増と4年ぶりの増加、総需要合計は同比1.6%減の3,595,742トンと4年連続の減少となり、4年連続で総需要合計が400万トン台未達となりました。

国内需要の用途別内訳は主力の輸送向けは前年比0.7%減の1,572,666トンと減少幅は縮小したものの2年連続の減少となりました。金属製品向けは同比

3.6%減の496,892トンと2年ぶりの減少。食料品向けが378,849トンで同比2.8%減と4年連続の減少。建設向けも359,563トンで同比5.6%減と4年連続の減少。そのほかは、電気機械向けは+9.9%、化学向けが+3.0%と2年連続で増加。電力向けも2年ぶりに増加したが一般機械向けは2年ぶりに減少しました。

製品別の需要内訳は下の表のとおりで、鋳造品、電線は2年ぶりに増加しましたが、鍛造品は5年ぶりに減少し、ダイカストは2年連続で減少しました。圧延品、輸入製品、鉄鋼用その他は4年連続でマイナスとなりました。

アルミニウム製品別総需要実績

(単位：トン %)

	2024年暦年	2025年暦年	25/24
圧延品	1,672,965	1,657,376	-1.0
鋳造品	363,727	366,143	+0.7
ダイカスト	890,337	884,794	-0.6
鍛造品	66,365	64,495	-2.8
電線	24,019	26,050	+8.5
鉄鋼その他	167,339	159,927	-4.4
輸入	469,086	436,957	-6.9
総需要	3,653,838	3,595,742	-1.6

温暖化ガス排出量 減少

環境省は4月14日、2024年度の国内温室効果ガス総排出量は10億4600万トンと前年度比1.9%減少し、1990年度以降で過去最低だったと発表しました。

減少の理由として、粗鋼生産の減少など製造業の生産量が減ったことや自動車の燃費改善、貨物の積載効率向上、そして電源構成に占める再生可能エネルギーや原発の割合が3割を超えて脱炭素化が進んだ影響が

考えられます。

政府は30年度の排出量を13年度比で46%削減の目標を掲げています。目標の排出量は森林などによる吸収分を差し引いた実質値で、24年度は前年度比1.9%減の9億9400万トンとなり、13年度比では28.7%減で、46%目標までにはもう一段の努力が求められます。

西尾茶

矢作川の下流台地は、水はけが良く地味が肥えて茶の木の育成に最適とされています。

新芽は太陽光を遮蔽されておだやかに育ち高級茶に加工されます。「西尾の抹茶」は日本有数の生産量を誇り、特許庁の地域ブランドに認定されました。

毎年この季節に茶葉クラブのメンバーが古式豊かな茶摘み行事を披露します。



社内情報

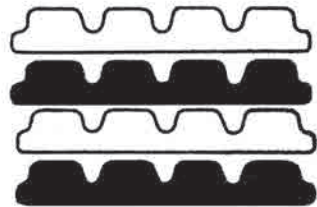
- ◎ 1年前に南側緑地帯に植えたビワの木とミカンの木は、雨量が少なかった影響で生育が遅れています。
- ◎ 4月末で決算棚卸しを行いました。原料納入業者と運送関連の皆様にはご無理を申し上げます。
- ◎ お陰様で順調に棚卸しが終わりました。ご協力に厚く感謝申し上げます。
- ◎ 新緑の緑地帯を大型チドリ「ケリ」のヒナが歩き回り出しました。親鳥は必死に子供を守っています。

編集後記

- ☐ 気象庁は、40度以上の日を「酷暑日」と呼ぶと発表しました。「猛暑日」までで勘弁してほしい。
- ☐ ホルムズ海峡の航行困難が続き、石油関連資材の供給不安が高まっています。
- ☐ 中東情勢の緊迫化は1頁の記事の通りにアルミの国際供給網にも大きな影響を及ぼしています。
- ☐ 商品取引会社マーキュリアのアナリストが「ブラックスワン」に見舞われていると語り、危機をあおる。

アルミ缶リサイクリング 鋳造用アルミニウム合金地金

アルミニウムそのものでは強さ、加工性などの点で不十分で、銅、シリコン、マグネシウム、亜鉛、鉄、マンガン、ニッケル等を用途に応じて添加合金しますと、非常に優れた強さ、鋳造し易さ、加工し易さ、耐熱性などが得られます。添加金属は非常に微量の場合もあり、そのため厳重な品質管理が要求されます。当社では発光分光分析装置を使用して、迅速・正確な品質管理の下で非常に優れたアルミニウム合金を作り、日本の産業の発展に寄与しています。



ISO 9001 認証取得 (KHK-ISO CENTER)
アスカ工業株式会社

〒444-0303
愛知県西尾市中畑町卯新田上28
TEL <0563> 77-0500(代)
FAX <0563> 77-0501
<http://www.al-asuka.jp/>